

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月11日

【評価実施概要】

事業所番号	0174600577		
法人名	株式会社 アルムシステム		
事業所名	グループホームふれあいみなみ野館		
所在地	〒080-0027 帯広市西17条南41丁目4-14 (電話) 0155-49-6330		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成22年2月10日	評価確定日	平成22年3月11日

【情報提供票より】(平成21年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)15年 5月 31日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 5人, 非常勤 4人, 常勤換算	5.4人

(2) 建物概要

建物構造	木 造り		
	2階建ての	1～2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,000～38,000 円	その他の経費(月額)	24,000～29,300 円
敷 金	有() 円 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 700 円		

(4) 利用者の概要(12月 1日現在)

利用者人数	9 名	2 名	7 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名
要介護3	2 名	要介護4	1 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	77 歳	最低 60 歳	86 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北斗病院 なりた歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、住宅地に溶け込んだ造りとなっており、周辺には大学、高校、大型スーパーなどがある。職員は、安心、安楽という事業所独自の理念のもと、毎日おやつの時間を利用し、体力低下防止の体操、誤嚥防止を兼ねて大きな声で歌を楽しんでいる。管理者と職員は常に情報を共有し、利用者本人の力が最大限発揮できるよう見守り、日々充実した生活を過ごせるよう支援している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題である職員を育てる取り組みについては、内外研修を段階的に実施しており、職員は国家資格取得を目指し、より一層サービスの質の向上に取り組んでいる。同業者との交流については、管理者が以前勤務していた病院の関係者に食事の献立や誤嚥防止の情報を得るなど交流を行っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、職員が個々に書き込むことで日々のサービスの振り返りにもつながる機会となり、全体会議で話し合い管理者が取りまとめ作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回開催している。構成メンバーは地域住民代表、地域包括支援センター職員、家族代表、施設長、ホーム長で、活動内容報告、今後の行事予定、外部評価の実施についてなど説明し、委員から出された意見や要望を記録に残し運営に役立てている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時に意見や相談事などを話しやすい雰囲気づくりに心がけ、本人、家族が不安なく暮らせるように支援している。また、事業所以外にも苦情相談窓口があることを重要事項説明書で知らせている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、事業所発行のたよりを回覧している。事業所のみなみ野まつりや、防災訓練に地域の参加を呼びかけており、町内会行事の焼肉パーティなどに利用者と一緒に参加している。さらに、除雪作業の協力を得るなど地域との交流を深めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	日々楽しくをモットーに暮らすことを支援するため、安心、安楽という事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフ会議やカンファレンスなどで常に理念を振り返り、日々のケアサービスに活かしている。		
必要に応じ介護保険課、福祉課に出向き情報やアドバイスを得、サービスの質の向上に活かしている。					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、事業所発行のたよりを回覧している。事業所のみなみ野まつりや、防災訓練に地域の参加を呼びかけており、町内会行事の焼肉パーティなどに利用者と一緒に参加している。さらに、除雪作業の協力を得るなど地域との交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員が個々に書き込むことで日々のサービスの振り返りにもつながる機会となり、全体会議で話し合い管理者が取りまとめ作成している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営委員会は地域住民代表、家族代表、地域包括支援センター職員を構成メンバーとし、2ヶ月に1回開催している。事業所からは施設長、ホーム長が出席し、活動内容報告、今後の行事予定、外部評価実施についてなど説明し、委員から出された意見や要望を記録に残し、職員で話し合い運営に役立てている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長が必要に応じ介護保険課、福祉課に向き情報やアドバイスを得るなどして、サービスの質の向上に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	隔月でみなみ野館だよりを送付している。本人の健康状況、受領書で金銭管理については、毎月手紙で報告している。家族等の来訪も多い。また、急な体調変化などがあった場合は、電話で報告するなどしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族は少なくとも月に一度は来訪している。その際には、意見や相談などを話しやすい雰囲気づくりに努めている。また、事業所以外にも苦情相談窓口があることを重要事項説明書で知らせている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が異動や退職する場合は、見守りを行うなど、利用者には不安を与えないように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、内外部研修に段階的に参加している。職員は働きながら資格取得を目指し、トレーニングしていくことを進めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が以前勤務していた病院の関係者に食事の献立や誤嚥防止の情報を得るなど交流を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者と介護支援専門員が利用者の家族宅を訪問して面談し、事業所のサービス内容を説明している。利用者は事前に家族と共に事業所を見学し、おやつを一緒に過ごすなど、徐々に馴染めるように配慮し、利用に至っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者と同じ目線で向き合い、利用者との意見交換しながら、喜びや悲しみを共にしている。また、人生の先輩として学ぶことも多く、日々支えあいながら暮らしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中から利用者の思いを把握し、利用者のペースに沿って、できるかぎり見守り支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	長期、短期目標をたて毎月のモニタリングに全職員が参加し、関係者の意見をもとに話し合い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1回見直している。変化が見られたときは、関係者と話し合い、その都度見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所のバスで紅葉狩りや買い物、動物園、花見、家族の要望に応じ通院介助や送迎など、柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望するかかりつけ医に受診できるように支援している。主治医との関係を大切にしながら、事業所の看護職員が日常健康管理を行い、家族と連携し通院を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始契約時に重度化、終末期に向けた説明をし、利用者や家族の意向を取り入れ確認書を交わしている。確認書の内容と方針を全職員が共有して対応を図り、利用者が安心して暮らせるよう支援している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の誇りやプライバシーを損ねることのないような言葉かけ、トイレ誘導に気を配っている。また、記録は外部に持ち出さず、個人情報はシュレッダーで処理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者の日常の流れを把握し、自分で出きることを日課として、ブラインドの調節、廊下のモップがけ、おしぼりたたみなどの役割を持って、張り合いのある日々を過ごせるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況にあわせ、お粥、刻み食などを提供し、麺、パン、ご飯を自由に選べるようにしている。食事が楽しいものになるよう、個人の箸、器、盛り付けにもこだわり、食事の準備、後片づけなど利用者と職員が一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴については、一人ひとり週に3回設定している。利用者の体調に合わせてシャワー浴や清拭を行うなど柔軟に支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者はできることを自分で行うようにしており、ブラインド調節、廊下の掃除、食事の盛り付けなどの役割や、ビデオ、咀嚼維持も含めている歌、縫い物、事業所の周りで花を育てるなどの楽しみごとの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に沿って散歩や買い物など、柔軟に支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全職員は鍵をかけることの弊害を認識しており、防犯上夜間のみ施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は年2回行っており、消防署指導のもと避難訓練、救急救命訓練を実施している。また、運営推進会議を通じ、地域住民の協力を呼びかけるなど働きかけている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表で管理している。水分量は1日1,500ccに設定しているが、個々の健康管理によりきめ細かに支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは程よい広さであり、それぞれ気の合う者同士集っている。キッチンから食事の準備の音、匂いなど生活感を感じている。また、廊下には思い出の写真が貼ってある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には洗面台とトイレを備えている。家族と相談し使い慣れたものや仏壇、家族の写真を持ち込み、居心地よく落ち着いて過ごせるよう工夫している。		

※ は、重点項目。